

創食の心

理事長 安田 智彦

終戦から70年以上が経過し、我が国は自他共に認める経済大国に成長しました。終戦直後の焦土と化した日本から誰が今日の繁栄を想像することができたでしょうか。極貧の終戦直後、米軍による小麦の配給によってパンが作られるようになり、主に学校給食パンとして始まったパン食は、飢えを凌ぐものから国民の主食の一端を担うまで成長し、近年では安心・安全、健康志向の中、多種多様な要望に応えるまでになりました。

昭和28年、前理事長の故舟橋正輝はリーダーズダイジェストに掲載されていた米国アーノルドベーカーズ社の記事に釘付けになってしまいました。それは、南極観測隊長のバード少将が南極に忘れてきたパンを翌年解凍して食べたところ、大変おいしかったのをヒントとして、以降アーノルドベーカーズ社が冷凍パンを生産しているというものでした。

そこで舟橋は失礼を顧みず、アーノルド社長に書状をしたためたところ相通ずるものがあり、長きに亘る交流の末、昭和42年フジパンとアーノルドベーカーズ社は技術提携に及びました。同時にアーノルド夫妻より「技術提携のロイヤリティを日本のパン食普及、技術の向上に使ってほしい」との申し出があり、夫人の名前をいただき財団法人エリザベス・アーノルド富士財団が設立されました。

以降、製パン技術の向上やパン用小麦の品種改良などの研究者への研究助成金の交付、パン食普及の為のサンドイッチ講習会開催など社会公共の利益に寄与してまいりました。

新公益財団法人制度の施行により、当財団は平成24年4月1日に公益財団法人へと移行しました。設立以来目的は一貫して、国民の食生活の向上と食品産業の発達に寄与することであり、引き続き目的に従って公益に供してまいり所存でございます。